

資源管理型漁業推進総合対策事業 (広域回遊資源：太平洋北ブロック) 調査—抄録—

※白 取 尚 美・※※高 梨 勝 美・※※※上原子 次 男

発 表 誌 名

平成3年度広域資源管理型漁業推進総合対策事業報告書 平成4年3月青森県(太平洋北ブロック)

抄 録

天然資源調査(ヒラメ)

1. 漁獲統計調査

ヒラメ漁獲量の比較的多い漁業協同組合については組合への委託、または直接浜帳を借用して過去6年間の魚法別、銘柄別、活魚鮮魚別漁獲量を調査した。それ以外については県統計及び青森県漁連の日報を用いて補足した。

委託調査組合

竜飛・今別町西部・今別町東部・平舘村・蟹田町・脇野沢村・下風呂・岩屋・泊・六ヶ所海水の計11漁業協同組合

試験場調査組合他

三厩村・大間・大畑町・白糠漁協および八戸漁連管内分の小型底曳

2. 資源生物調査

年齢査定、成長等の調査のため、八戸漁連管内分の小型底曳及び、三沢市、白糠、岩屋、佐井村、脇野沢村の各漁協において検体を得、北海道大学水産学部漁場学講座に解析を委託した。なお本年は検体数が不足したため次年度も引き続き調査を継続することとした。

ただし作業を進める上で、とりあえず下記に示した年齢と全長との関係式、銀と体重との関係式及び全長別の雌雄比を求めて使用することとした。

① 年齢と全長との関係式

♀ : $L = 883.7 \times (1 - e^{-0.16278(t+1.23726)})$ L : 全長mm t : 年齢

♂ : $L = 589.0 \times (1 - e^{-0.28832(t+1.06117)})$

② 全長と体重との関係式

♀ : $W = 4.143 \times 10^{-3} \times L^{3.1625616}$ L : 全長mm W : 体重g

♂ : $W = 4.278 \times 10^{-3} \times L^{3.1591726}$

③ 全長と雌雄比との関係式

雄 : 雌 = 1 : 1 ($L \leq 25\text{cm}$)

雌の割合% = $1.476 \times L + 12.893$ ($25\text{cm} < L < 60\text{cm}$) L ; 全長cm

雌 : 雄 = 0 : 1 ($L \leq 60\text{cm}$)

3. 標本船・漁船用船調査

漁業実態の把握及び漁獲されるヒラメの全長組成を明らかにするため、以下の各組合の所属船に野帳の記載及び漁獲したヒラメの全長測定を依頼した。

八戸市南浜漁協 刺網船 2 隻
八戸市漁協 刺網船 1 隻
三沢市漁協 刺網船 1 隻
佐井村漁協 刺網船 2 隻 底建網船 2 隻
八戸遠海漁協 小型底曳 2 隻

以上の調査のうち、八戸市南浜、八戸市及び三沢市漁協所属船による全長測定結果を図 1 に示した。6、7 月には産卵に関与すると思われる全長 35cm 以上の大型ヒラメの漁獲も 4 割位あるが、それ以外の月では全長 35cm 未満の未成魚を主体に漁獲していた。

ただし青森県独自の全長制限による自主規制（25cm 未満の漁獲禁止）に関してはほぼ守られていた。

4. 市 場 調 査

銘柄の全長組成を把握するため、白糠漁協において銘柄毎の全長測定を行い、それを正規分布にまとめた結果を図 2、3 に示した。鮮魚、活魚とも銘柄が小以上の大型のものでは明瞭に銘柄が分離しているが、鮮魚の P・2P や活魚の小・P ではかなり重複していた。

5. 資 源 診 断

平成 3 年度中に収集したデータをもとに年齢別の漁獲尾数を推定した。

※ 現在漁政課

※※ 現在青森県水産部漁業振興課勤務

※※※ 現在青森県水産部漁政課勤務

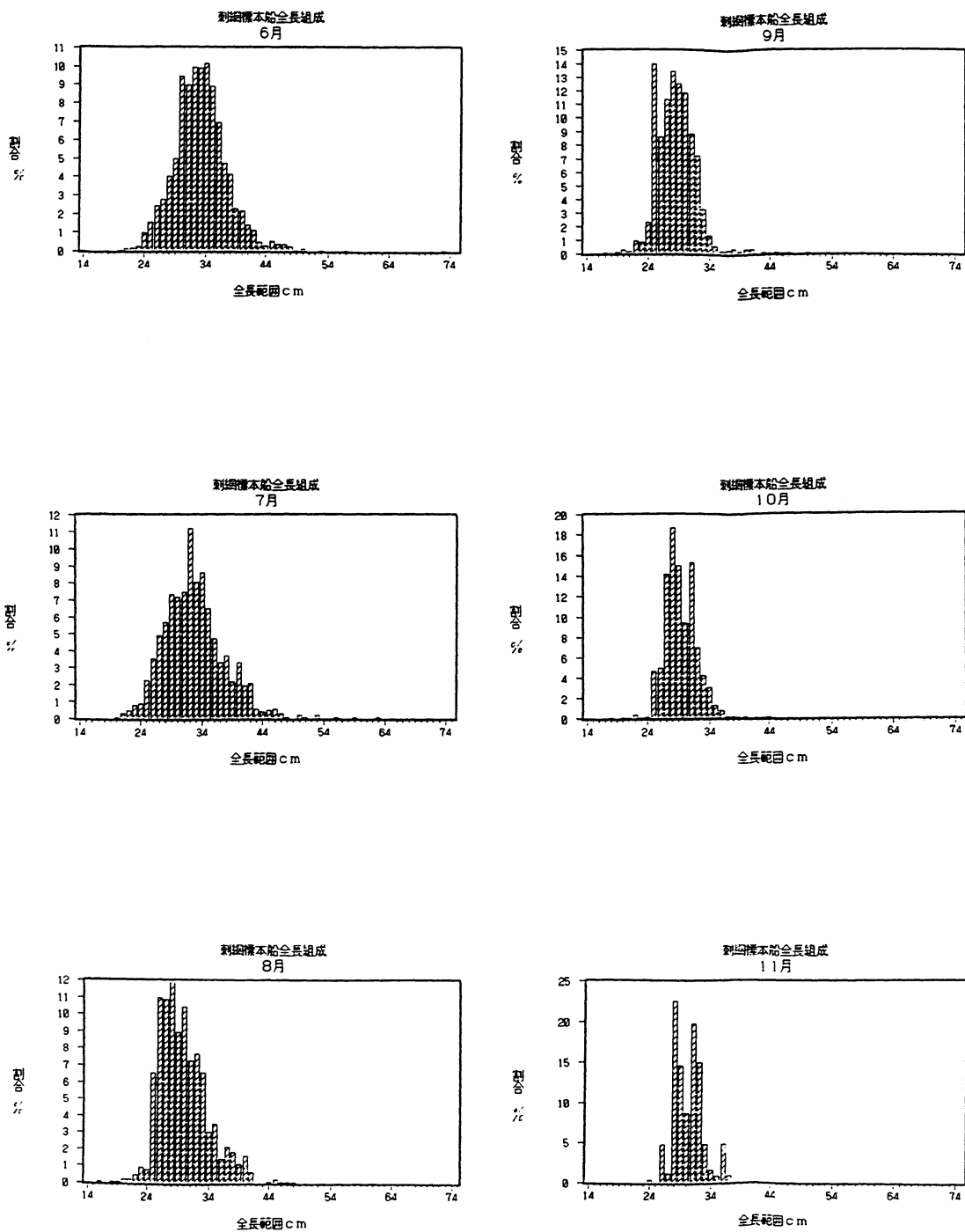


図1 刺網標本船によるヒラメの月別漁獲全長組成

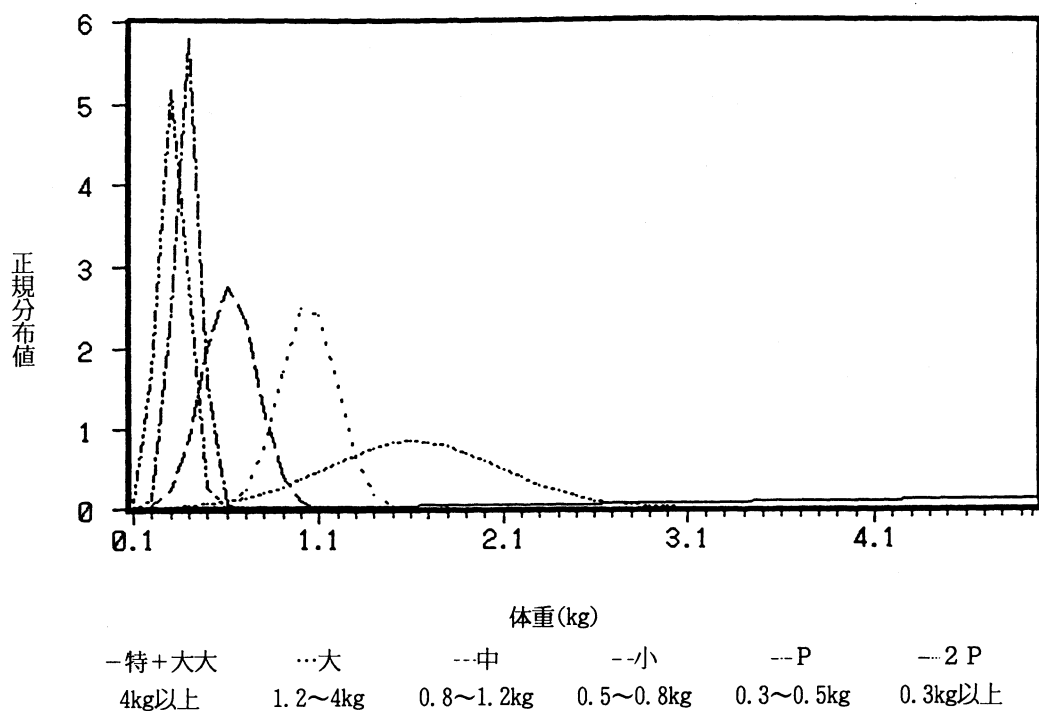


図2 鮮魚の銘柄別体重組成
名銘柄毎の正規分布値

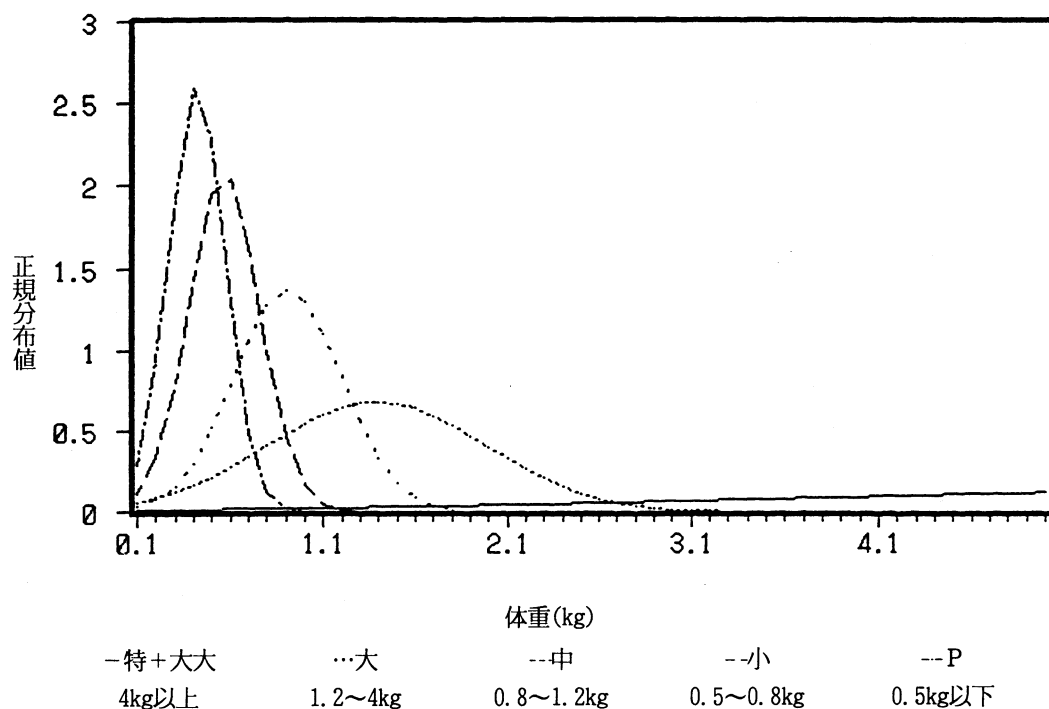


図3 活魚の銘柄別体重組成
名銘柄毎の正規分布値